

令和2年8月18日
大阪府立住吉高等学校

1. 委員（出席者）

大塚 耕司（会長）、高島 裕二（副会長）、森田 英嗣、
森本 哲弘、河野 豊、劉 耕助

2. 第1回学校運営協議会における住吉高校の取組みに対する意見

令和2年度第1回学校運営協議会は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、各委員からメール等により各議題に関してご助言ご意見をいただきました。

（1）学校経営計画および学校評価について

- 住吉高校の伝統と実績を基に、特色ある5つの教育目標を掲げ、その達成に向けた4つの観点での自己点検評価において高い数値目標を掲げていることに敬意を表す。また、いずれの数値目標もほぼ達成していることは、日々の先生方の努力の賜物と推察する。国公立大学合格者数で未達となっているが、高い目標を設定しているが故と理解している。引き続き、データに基づくPDCAを進めてもらいたい。
- 大変充実した計画だと感じた。計画の達成を期待する。「3 本年度の取組内容及び自己評価」の「1-(1)-ア。」の「具体的な取組計画・内容」について、もう少し具体的に、どのような取組によってその「重点目標」が達成されるのか、特にどのように「評価」するのかを記載する方がよい。
- 中期的目標3について、世界で信頼されるためには、豊かな人権感覚が必要であることが必須であることを強調する方がよいと思う。国際感覚の内実は人権感覚であり、信頼が尊敬の必要条件であることを意識させる必要がある。なお、体育祭や文化祭の行事は大きな意義を有しているので、規模や方法の工夫はするにせよ、その実施自体は必要不可欠であるから、感染防止を過度に強調して中止にするのではなく、積極的に実施するべきである。
- 新型コロナウイルス感染症の影響によって計画について、前倒しになる点、後ろ倒しになる点が出てくることと思う。例えば前倒しになる点の代表はICT活用、後ろ倒しになる点の代表は国際交流や国際共同研究が該当するものかと思われる。一方では国際系はICTの活用によって距離を埋めることもできるので、姉妹校である中山高級女子中学とのやり取りは互いの刺激になりそうだと思う。

（2）国際文化科の取組みについて

- 新型コロナウイルス感染症対応によりたいへんな苦勞をしていることと察する。個別

の留学生対応に加え、海外研修やユネスコスクールネットワークも含めてさまざまな行事がほぼ全面的に見直しせざるを得ない状況で、今後の見通しもなかなか立たないと思われる。そのような中、TOEFL や GTEC、ユネスコスクール活動への取組みをしっかりと進めていることに敬意を表する。ICT 活用での課題を指摘されているが、コロナ禍では不可欠なツールであるので、環境整備を進めるとともに、現状でも何とかうまくやりくりして成果をあげてもらいたい。

- 大変充実した取組みになっており、感心する。ただ、「国際交流事業行事」も含めて、COVID-19 の影響によって高度なカリキュラムマネジメントが必要になっていると想像している。第2波、第3波の襲来も想定したカリキュラムマネジメントを行い、同じく国際交流を組み込んだカリキュラムを展開している他の高校の参考になるような対応策を開発し、発信してもらえるとありがたい。
- 国際文化科の取組みについて、感染防止を過度に重視しない方が良い。外国に行ったり、外国の方を迎えたりするのは難しいが、感染経路のメインが飛沫感染であり、サブが接触感染であり、その余は稀であることからして、アクリル板等による遮蔽措置とマウスシールド使用を中心とした感染対策を施しながら、積極的にカリキュラムを展開していくべきである。
- デジタル教科書を利用した授業展開、AL の授業形式を取り入れ、GTEC でも顕著な結果が出ていることがうかがえた。コロナ禍ではペアワークやグループワークといったコミュニケーションは取りづらくなると思うので、録音して聞く、オンラインで話すといった ICT の活用がより望まれる。第2外国語が選択できるのは今後日本の高校自体がダイバシティをめざしていくうえで魅力と思えた。オンライン授業へのチャレンジで明らかになってきた環境整備の課題については、他校での好事例も参考にするとよい。

(3) 総合科学科の取組み

- 今年度の取組みの大きな方針として、活動の普及を挙げているが、昨年までに体系化された活動の内容があまり具体的に示されていないので、少し課題が分かりづらい資料となっている。前回の協議会で話したときの記憶では、課題の発見の部分で苦労しているように思えた。課題解決の実践がうまく進むかどうかの肝はやはりモチベーションなので、いかに「おもしろい」課題を見つけさせるかが重要。「おもしろい」と思ってもらうためには、指導者自身が「おもしろい」と思うことが大事なので、フリーハンドで課題を発見させるより、少し大まかなルールを敷いたうえで小さな「穴」を発見させるといったイメージで進めてはいかかがか。
- 評価についてはこれまでの総括的評価に加えて、形成的評価が今後は必要になってくると思う。こちらについてはポートフォリオやルーブリックが該当するので参考になりそうな資料を添付しておく。また学校として身に付けさせたい資質能力である「5つのつ

けたい力」を育む代表的な時間になることが理想で、書かれている通りそれは1単位では限界があると思いますので探究×〇〇の発想を先生方で検討すると良いと思う。これが次期学習指導要領でも必要な観点である「教科横断的な学び」につながると考えている。

(4) 進路指導の取組み

- 大学共通テスト改革のタイミングで、進路指導にはたいへん苦勞していることと察する。そのような中、関関同立の合格者が回復傾向にあるのは指導の成果であると思う。国公立大の合格者数は高い数値目標を掲げていることから、なかなか達成するのは容易ではないが、ぜひ粘り強く指導を続けてもらいたい。
- 進路指導についても積極的にカリキュラムを展開していく他、自主学習姿勢を築くための特別の配慮が必要であるように思う。具体的な方法はよく分からないが、学習計画の作成とその実施状況の確認作業が重要であろう。
- 安易な志望選択をさせず、生徒の持っている力以上の進路を実現させる、といった想いを感じた。生徒のポテンシャル・可能性を全教員で共有する為の情報共有体制が学校経営計画にもある定期的な模擬試験の分析会かと認識した。今後大阪府でも少子化が加速していくことを考えると理想的な学校の進路指導体制は「全担任の先生が進路指導できる」ことかと思う。

(5) 生活指導の取組み

- 遅刻総数の数値目標を1,500としていることに敬意を表する。2,000の目標にあと一歩というところでの大幅な改定に、強い意気込みを感じる。新型コロナウイルスの影響により、生活指導の方法も見直すところが多々あると思うが、世界で信頼され尊敬される品格を有する生徒に育てるため、引き続きしっかりと生徒指導をお願いする。
- 生徒の生活や出欠、遅刻行動に及ぼす影響は、確認しておくべきことのように思います。これまで不登校になっていたり、不登校気味であったり遅刻がちであったりしていた生徒に、どのような影響があるのかを確認し、何か傾向があれば特別の支援策が必要になるかもしれない。
- 生活指導について、喫緊の課題は携帯端末の使用法(依存)であるが、保護者は子どもよりも知識が乏しいので、どうしても子ども任せになってしまう。学校から、適切な指導方法についての助言があれば良い。
- 時間を守るという姿勢は大事だと大変共感する。時間を守るということは「時間が管理できる」「約束を守ることができる」にもつながると思っている。そういった意味合いではアナログではあるが、様々な学校では生徒用玄関にクラスごとの遅刻状況を記載したボードを用意し、クラスごとに意識をさせ、過去最高をめざさせる取組みで成功している

学校がある。生徒主体でこういった取組みが進んでいくと良い雰囲気ができるのではと
思っている。

(6) 住吉改革委員会 (SIC) の取組み

- 国際文化科のところで課題として出されている、ICT 環境整備に一層力を入れてもらいたい。コロナ禍において、対面授業の制約が大きくなる中、住吉 AL モデルの推進も含め、ICT を活用したリモートによる教育の重要性が一気に増した。今できることとできないこと、今だから急がねばならないことを精査して、強弱をつけた取組みを行ってもよいのではないかと思う。
- 「オンライン授業」では、ドロップアウトが多く発生すると言われているが、住吉高校の生徒にそうした傾向があるのかないのか、ある場合はどのような支援が必要なのか、そのあたりも視野に入れたカリキュラムマネジメントが必要になると思われる。さらに、教員研修の計画も変更が余儀なくされていると思われる。
- 住吉改革委員会について、子どもに広い視野をつけさせるためにも、地域、PTA、同窓会等との協働は、より積極的に進めていくべきである。
- 組織として様々な改革、課題解決に向かっていることに感銘を受けた。最近ではトップダウン型よりもボトムアップ型の組織に注目も集まっており、いかに中堅の教員が若手教員をその気にし、率先して新しいことにチャレンジするのかが学校の元気さを表していると感じている。小さなチームからはじめて、それを組織全体に広げていく、そして上手くいったことはのれん分けしていくことが理想かと思う。この PT の取組みを全体に総括する場、そして報告する場が年度末、新年度にあると良いと思う。

(7) 教科書選定・採択の取組み

- 教科書選定について特に意見はない。最適な教科書選定を行ってほしい。
- 教科書選定について、豊かな人権感覚を涵養するのに最も適した内容の教科書を選定することが当然であるが、具体的には、実際に使用する教員の意見を尊重して選定しなければならない。
- 教科書選定について特に意見はない。1年生が文理選択を検討する時間の確保という観点では教科書採択自体を後ろに倒したいという声もコロナの影響でよりあったようだ。

(8) その他の助言

- 今年は高等学校も教育内容を大幅に見直し、再構築することが必須で、それもいつ崩さねばならない事態になるやもしれない不安な毎日が続いている。しかしこういう状況で

あるからこそ一つ一つを丁寧に進めていきたいものである。

- 住吉高校の教員の方々、保護者の要望も適切に把握し、COVID-19 の悪影響を最小限にとどめ、この間の経験から学んだことを次の教育に生かせるような体制を作ってもらえることを、切に望む。
- 本年度はコロナウイルスにより授業や行事などあらゆる計画をすべて組み直し、調整しながらの1年間になることと思う。先生方のご尽力に心より感謝する。その中でも特に、しっかりと考えてもらっていることとは思うが、3年生については進路など生徒一人ひとりによりきめ細かな対応をお願いしたい。もう1点、校則変更について、例えば、保護者へのアンケート、他校の校則の情報収集、自治会との話し合い、など慎重に、かつ、学校主導、生活指導部主導になり過ぎないようにお願いします。グローバル化に伴う多種多様な生き方や新しい価値観に逆行、後退することのないよう、自由、自主、自律とは何か、を住吉高校に関わるすべての方と共に考え、より良い変更となるように重ねてお願いしたい。